

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：13301

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12572

研究課題名（和文）マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究

研究課題名（英文）Study of cultural resource management in Maya area: Conservation of cultural heritage and the regional development through the museum activities.

研究代表者

五木田 まきは (GOKITA, Makiha)

金沢大学・古代文明・文化資源学研究所・客員研究員

研究者番号：40806197

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：文献調査から文化遺産保全における地域の役割の重要性の変化、本研究の対象地が抱える課題を明らかにした。地域住民への調査では、考古学公園への偏重傾向、博物館展示の固定化、学校と博物館の連携不足、地域住民による博物館再訪問率の低さという課題を明らかにした。教員への調査では市内の他館と比べデジタル博物館の教育的利用意向が高いことが示された。また、博物館スタッフが自発的に展示解説を行い、よりよい解説のために自学することで、文化遺産や地域へのプラスの意識変容が生じていることを明らかにした。こうした特性からデジタル博物館の地域博物館としての可能性を指摘し、具体的な活動としてエコミュージアム構想を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、文化遺産保全と地域発展の持続可能な共存という国際的課題に対し、文化資源マネジメント、地域博物館、エコミュージアムの概念を組み合わせた新たなアプローチを示しており、今後途上国における実践のための学術的理論としての役割が期待できる。また、これまで詳細な調査が行われてこなかったコパルイナスの地域住民と文化遺産の関係について、遺跡公園や博物館の来場者、学校教育、博物館のスタッフなど多角的な視点から、利用実態と課題を明らかにし、その課題を踏まえて提案した具体的なエコミュージアム構想は進行中の博物館支援計画に貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：The literature review revealed the importance of local communities in cultural heritage conservation and the challenges they face.

Interviews with local residents revealed the following issues: a tendency to focus on the Archaeological Park, fixed museum exhibitions, lack of cooperation between the schools and the museums, and low rates of return visits to museums by local residents. A survey of teachers indicated that they were more willing to use the Digital Museum for educational purposes than the other three museums in the city. In addition, the museum staff members voluntarily provided explanations of exhibits and learned new knowledge for the purpose of providing better explanations, which led to a positive change in their awareness of the site, the museums, and the community. Based on these characteristics, this study pointed out the potential of the Digital Museum as a regional museum, and presented the eco-museum concept as a concrete form of such activities.

研究分野：文化資源学

キーワード：文化資源マネジメント 地域博物館 エコミュージアム 地域コミュニティ 住民参加 パブリック考古学 マヤ コパン

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

文化遺産の保全に関する国際動向をみると、**2007**年ユネスコの世界遺産条約におけるグローバルストラテジーの5つめの**C**として「コミュニティ」が追加され<sup>1</sup>、**2012**年世界遺産条約採択**40**周年最終会合の成果文書である「京都ビジョン」<sup>2</sup>においても「コミュニティの役割の重要性」が強調されている。このように、地域コミュニティが文化遺産保全に関与することの重要性が指摘されるにつれ、場としての博物館、とりわけ博物館活動を通じ地域課題に対峙する地域博物館への注目が高まっている。

マヤ文明遺跡を保有する中米諸国においても、発掘調査の作業員として地域住民を雇用したり、マヤ文明や考古学に関する教育活動を行うなど、考古学プロジェクトの一部として地域コミュニティのエンゲージメントを高める活動が実践されている<sup>3</sup>。しかし、マヤ文明を代表する遺跡の一つであり、長年マヤ研究の拠点として世界中のマヤ研究者の注目を集めるホンジュラスのコパン遺跡においては、地域社会を巻き込んだ文化資源マネジメント研究は未だ実践されておらず、文化遺産と地域コミュニティに関する詳細な調査と研究が必要である。

ホンジュラス共和国コパン県コパンプルイナスは、ユネスコ世界文化遺産「コパンのマヤ遺跡」を有する人口約**4**万人の市である。コパン遺跡は米国を中心とした世界各国の研究者により長年にわたり調査され、豊富な碑文に基づく王朝史復元や建造物装飾の図像解釈モデル等、重要な学説を提供するマヤ文明研究の拠点の一つである<sup>4</sup>。遺跡の主要部である考古学公園から地域住民の居住区までの距離が**1** kmほどと近接し、世界遺産の遺跡の観光は市の主要産業であるなど、地域と文化遺産が密接な関係にある。観光客を受け入れるための商業施設が増加し、人口増加に伴って都市開発が進んでいる。しかし、世界遺産の保護区域外にも多くの文化遺産が点在するため、開発による破壊の危機に瀕しており、文化遺産保全と地域発展の共存が喫緊の課題となっている。



コパンプルイナス市都市部と世界遺産の遺跡公園

## 2. 研究の目的

本研究は、ホンジュラス・コパンプルイナス市を対象とし、地域住民と共に実践する博物館を拠点とした活動を通じて地域社会の新たな価値を活用し地域の課題に対峙する文化資源マネジメントを実践的に検証することを目的とする。

<sup>1</sup> UNESCO World Heritage Committee. (2007b) *State of conservation of World Heritage properties inscribed on the World Heritage List (WHC-07/31.COM/7B)*.

<sup>2</sup> UNESCO World Heritage Center. (2012). *The Kyoto Vision*.

<sup>3</sup> McAnany, P. A. (2016). *Maya Cultural Heritage: How Archaeologists and Indigenous Communities Engage the Past*. Lanham, U.S: Rowman & Littlefield Publishers. Woodfill, B. K. S. (2013). Community Development and Collaboration at Salinas de Los Nueve Cerros, Guatemala. *Advances in Archaeological Practice*, 1(2), 105-120 など

<sup>4</sup> Fash, W. L. (2001). *Scribes, Warriors, and Kings: The City of Copán and the Ancient Maya, Revised edition*. New York, USA: Thames & Hudson. 中村誠一(2007) 『マヤ文明を掘る』日本放送出版協会など。

ここでいう文化資源マネジメントとは、人間が生み出す多様な有形・無形のモノや情報などあらゆる文化的要素について、既存の概念や価値評価とは異なる「新たな価値」を発見・再評価し、現代および将来の社会発展に資する「文化資源」として活用することを目的とする新しい学問分野である。これまでの遺跡を中心とした歴史的側面、或いは観光開発に資する経済的側面による価値付けでは、地域住民は評価の外に置かれることが多かった。しかし、あらゆる文化を対象とする文化資源学概念に基づく活動では、地域住民を文化を受け継いできた主体として巻き込むことが可能となり、地域の誇りや保護意識の醸成が期待できる。また、日本において「まちづくり」としても語られる活動事例を見ても、住民が主体となって地域の価値を総合的にとらえ活用していくことが地域発展につながるということが指摘されている。

それゆえ、本研究では保全と発展を共存させる文化資源マネジメントの在り方を検証するために、マネジメント対象であるコパルイナス市の文化資源とは何かを明らかにし、博物館において地域の文化資源を活かした活動実践を地域住民と共に進める。これを通じて、途上国における文化遺産保全と地域発展の持続可能な共存に貢献することが期待される。また、本研究は考古学遺跡等の文化遺産に加え、指定の有無に関わらず地域の文化の特性を支える有形無形のあらゆる要素を地域の発展に資する文化資源と捉えなおし、保護も含めてそれらを活用していくことを通じて地域発展の実現を目指すものである。

### 3. 研究の方法

本研究は、文献調査と現地調査から構成される。文献調査では、文化遺産分野における先行研究および **UNESCO** や **ICOMOS** といった国際機関発行の文書などから、国際的動向およびマヤ地域におけるコミュニティ関与の現状と課題を明らかにした。また、対象地のホンジュラスにおける文化遺産行政について、文化遺産および博物館に関連する法令と体制、コパン遺跡のマネジメントについては、**IHAH** 発行のマスタープラン、**UNESCO** へ提出する報告書、**UNESCO** からの回答書などから課題を分析した。

現地調査では、対象地における文化遺産と地域コミュニティとの関係を把握するための方法として社会調査手法および博物館学の調査手法を用いた。本研究で用いるデータは、**2018** 年 **10** 月 **29** 日から **11** 月 **6** 日にかけてホンジュラス国民によるコパン遺跡に対する意識・利用実態調査のために行った質問紙調査、および **2018** 年 **10** 月 **31** 日から **11** 月 **7** 日にかけて行った学校教員に対する文化遺産の利用状況調査についての質問紙調査の結果から、クロス集計やテキストマイニング、キーワード分類などを用いて分析したものである。

### 4. 研究成果

#### 文化遺産マネジメントの課題

世界遺産に代表されるように、文化遺産の保護は国際的な課題となっている。その結果、多くの遺産が保護されるようになった。人文科学におけるポストコロニアリズムやポストプロセス考古学の議論では、文化に関する表象や議論はもはや研究者だけのものではないという見解が示され、文化遺産管理における地域住民の理解と参加の必要性が広く受け入れられている。しかしその一方で、世界遺産のような普遍的価値をアピールすることは、西欧の伝統的な遺産のレンズを通して、狭く特殊な方法で遺産を定義することであると批判もあった。

マヤ地域においても、地域住民を発掘調査員として雇用したり教育プログラムを提供するなど、地域コミュニティを対象とした文化遺産マネジメントは行われているが、その多くはプロジェクトと同時に終了する一方向的なものであり、地域住民の関与は受動的なものであることを明らかにした。地域住民の主体性や継続性をいかに実現するかが重要な研究課題であり、博物館はコレクションとして地域の文物を取り扱う恒久的な社会教育施設である点から、本研究

では地域住民が主体となって文化遺産マネジメントに関与する場としての可能性を見出した。

#### コパン考古学公園の訪問者のニーズと課題

考古学公園の出口において見学を終えたホンジュラス国民に質問紙調査への協力を呼びかけ、**130**人より回答を得た。質問項目は、基礎的情報に加え、選択式で訪問回数・満足度・訪問動機・滞在時間、自由記述式で最も印象に残ったこと・遺跡で行いたい活動・遺跡のイメージ、ほかの近隣の遺跡や博物館の訪問経験である。

訪問回数については、約半数が**1**回目と答えた。訪問回数と動機については、訪問回数が増えるにつれて観光の割合が低くなり、余暇や学習、仕事のためなど目的が多様化していることがわかった。また、印象に残ったこと・遺跡で行いたい行動についての質問については、神殿ピラミッドや発掘トンネルなど遺跡の代表的な見学ポイントに加えて自然に関する回答が挙げられた。近隣の他の文化遺産の訪問経験に関する質問では、コパン遺跡公園以外の遺跡や博物館の利用率が低く、コパン遺跡公園をはじめとするこの地域の様々な文化遺産への訪問者の集中が、十分に活用されていないことが明らかになった。

#### 学校教員の文化施設の利用実態

コパンプルイナス市都市部に所在する小・中・高等学校の教員（**5**校 **97**名）に対して、地域の文化遺産とのかかわり方を把握するための調査を実施した。現地協力者**1**名と各校を訪問して校長を通じて在籍する教員へ質問紙を配布し、数日後に再訪して**56**枚を回収した（回収率**57.7%**）。質問項目は、遺跡・博物館への訪問経験、及び学校教育の枠組みの中での利用経験、今後の訪問・利用予定、非訪問の理由である。



コパンプルイナス市の小学校の様子

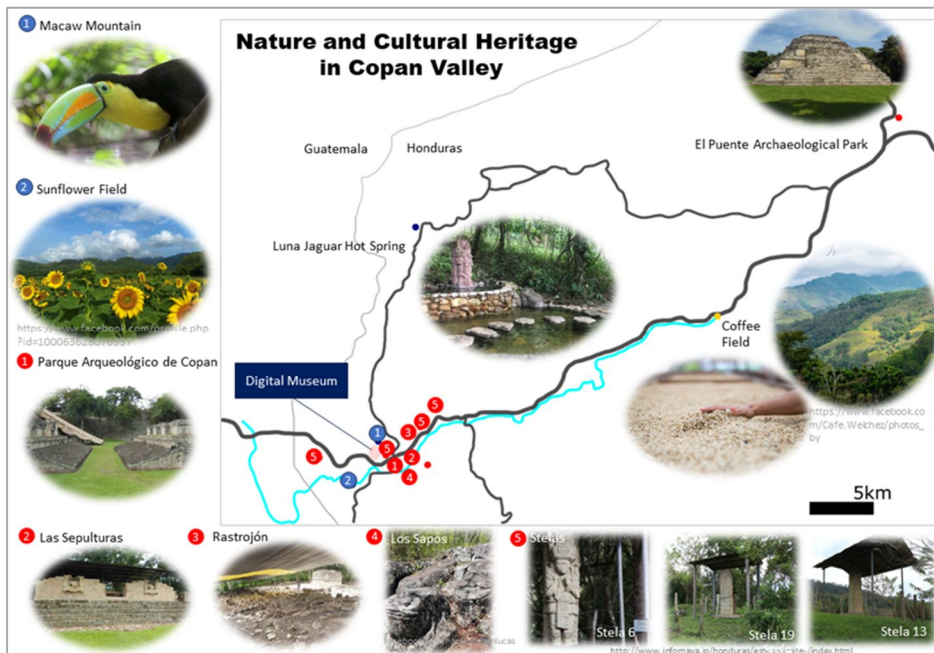
教員の年齢分布および男女比をみると、**20**代～**40**代が全体の約**78%**、女性教員が全体の**75%**となり**40**代以下の女性教員が大半を占めることが特徴的であることがわかった。社会科教育経験の有無と遺跡や博物館の訪問経験については、社会科教育経験のある教員の**97.6%**とほぼ全員が授業においてコパン遺跡について言及していると回答した。一方で、未経験者や無回答者では、それぞれ**60%**と**66.7%**と**20**～**30**ポイントの差が生じており、社会科教育経験と遺跡への言及の相関関係が明らかになった。取り上げる内容としては、歴史（古代文明・歴史）が最も多く半数以上が回答しており、社会科教育経験のある教員が高い言及率を示した結果を合致する。

利用経験と今後の利用予定については、訪問経験・予定、教育的利用経験・予定のすべてにおいて考古学公園への訪問経験・予定があるという回答数が最も多かった。博物館については、経験については個人としての訪問経験・教育的利用経験ともに子ども博物館がもっとも多かったが、予定についてはデジタル博物館が最も多いという結果となった。訪問経験・教育的利用経験は子ども博物館と石彫博物館がデジタル博物館を上回っているにもかかわらず、今後の利用予定についてはデジタル博物館が最も回答者を集めたという結果は、デジタル博物館がコパンプルイナス市の文化施設のなかで今後教育的利用に対応しうる施設として期待できることを指摘したい。遺跡の教育的利用率が博物館よりも高かった理由としてガイドの有無が挙げられたように、訪問時に解説してくれる人員がいるかどうか訪問率・訪問意向に影響していると考えられる。そのため、デジタル博物館で開館以来独自に行われているスタッフによる展示解説が訪問意向に影響したと考えられる。



## 地域課題をふまえた文化資源マネジメントとしてのエコミュージアム構想

本研究のための事前調査により、コパンルイナス市の文化資源マネジメントの課題として、考古学公園の訪問者への質問紙調査から考古学公園への偏重傾向があり、博物館展示の固定化、学校と博物館の連携不足、地域住民による博物館の再訪問率の低さの 4 点を明らかにした。このうち、学校との連携については、本研究で実施した教員へのアンケートにより、市内の他 3 館と比べデジタル博物館の教育的利用意向が高いことを明らかにし、デジタル博物館はコパンルイナス市の博物館の中で学校との連携に最も適した博物館であることを示した。その他の課題をふまえ、本研究では地域住民が主体となり地域社会の発展を目的とした概念としてエコミュージアムに着目し、具体的なコパンエコミュージアム構想 ( Museo Ecológico de Copán、MEC ) を策定した。エコミュージアムは、建物としての博物館に留まらず、地域の一定の範囲を領域として、そこに点在する様々な要素を展示物とみなすため、必然的に人々をまちへと誘うことが期待できる。こうした特性を持つエコミュージアムを展開することで、考古学公園への偏重というコパンルイナス市の課題に対する対応することが可能であると考えられる。



エコミュージアムマップのイメージ

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Makiha GOKITA	4. 巻 -
2. 論文標題 Los museos y la comunidad local en Copan Ruinas, Honduras	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 I Simposio de Arqueologia Pblica en El Salvador, 2018 "Mas alla de la arqueologia: Arqueologia Publica"	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五木田まきは	4. 巻 722
2. 論文標題 マヤ地域の博物館と地域コミュニティに関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 30-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gokita, Makiha	4. 巻 1
2. 論文標題 A Study on Cultural Resource Management in Copan Ruinas, Honduras	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Studies in Ancient Civilizations	6. 最初と最後の頁 39 ~ 46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24517/00069274	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Makiha GOKITA
2. 発表標題 Community and heritages in the Maya area: A case of Copan Ruinas, Honduras
3. 学会等名 9th World Archaeological Congress (WAC-9) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Makiha GOKITA
2. 発表標題 Los museos en la comunidad: El caso del Museo Digital de Copan, Honduras
3. 学会等名 Proyecto para la formacion de personal y apoyo a la auto-organizacion en el Corredor Turistico al Parque Nacional Tikal (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 五木田まきは
2. 発表標題 ホンジュラス共和国コパン・ルイナス市における文化遺産の利用実態と課題
3. 学会等名 古代アメリカ学会第25回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Makiha GOKITA
2. 発表標題 Museums and local communities in the Maya area: A case of Copan Ruinas, Honduras
3. 学会等名 2019 ICR Annual Conference in ICOM Kyoto (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makiha GOKITA
2. 発表標題 LOS MUSEOS Y LA COMUNIDAD LOCAL EN COPAN RUINAS, HONDURAS
3. 学会等名 I Simposio de Arqueologia Publica en El Salvador (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 五木田まきは
2. 発表標題 マヤ地域における文化遺産の持続的活用と地域コミュニティ
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Makiha GOKITA, Cultural Resource Management with a Regional Museum at its Core: The Case of Copan Ruinas, Honduras、学位請求論文（金沢大学）、2023年12月

6. 研究組織		
氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関